

行動科学 1 a

【単位数:0.5単位, 授業8コマ(定期試験含まず)】

1 科目責任者

平田亜紀 准教授(外国語)

2 教育目標

(1) ねらい(I-5-c, I-6-c, II-2-c, II-5-c)

- ① コンピテンスである「コミュニケーション」を理解し, “プロフェッショナリズム”を身に付ける。
- ② 本講義は, 行動科学の諸科目の導入的位置づけとして, 行動変容を考えるうえで基盤となるコミュニケーション行動を理解する。具体的には, 医師と患者・家族の相互作用の中で生じるバイアスや, 社会的・文化的文脈の影響について学ぶ。あわせて, 人の行動が置かれた環境の中で合理化される仕組みについて理解する。これらにより(1)患者と家族の心理・社会的背景を理解することの重要性の理解, (2)医療者として自分の行為を振り返ることの重要性の理解, (3)良好なコミュニケーションに必要なスキルを列挙し, 特定の状況で呈示できることがねらいである。

(2) 学修目標

- ① 患者-医療者関係を, 案に個人の性格や態度に起因させるのではなく, 対人コミュニケーション行動とその相互作用として考慮することができる。
- ② 臨床場面で生じる「思考や意図のズレ」に着目し, 説明を試みることができる。
- ③ 健康の社会決定因子について概説できる。
- ④ 医療の文脈における文化的繊細さの重要性について概説できる。

3 成績の判定・評価

	成績対象	割合	方法・コメント
演習点	○	35%	各回5%(計7回), 記述内容にて判断。 やむを得ない理由で欠席した場合は, 科目責任者と科目担当者の両名へ問合わせること。
定期試験	○	65%	多肢選択問題と, 上記の演習の内容を基にした記述式の試験。
態度	○	—	受講態度が著しく不良の場合には, 総合成績から10%まで減点をする。

出席: 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

上記(2)で総合成績が60%未満の場合は, 再試験を実施する。60%以上を合格とする。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

演習の振り返りで記入した内容へのコメントは次週の授業冒頭にて口頭で行う。定期試験については正答率の低い問題についてメールにて解説をする。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
行動医学テキスト	日本行動医学会	中外医学社	行動科学のうち医療の文脈に特化した書籍。
こころが動く医療コミュニケーション読本	中島 俊	医学書院	本書は、医療現場における患者－医療者コミュニケーションの具体例を通して、「なぜうまく伝わらないのか」「どこでズレが生じるのか」を考えるための導入的資料として有用。
Theory at a Glance: A Guide for Health Promotion Practice.		National Cancer Institute 米国国立がん研究所	発展的学修内容。本資料は、本科目の学修内容ではないが、家庭医療・地域医療・公衆衛生等に関心を持つ学生が、将来、行動変容理論を俯瞰的に理解する際の参考資料として紹介する。無料PDF入手可能。
日本語版：一目でわかるヘルスマーション：理論と実践ガイドブック		国立保健医療科学院	上記の日本語版
Making Health Communication Programs Work (通称 Pink Book)		National Cancer Institute.	発展的学修内容。本資料は、本科目の学修内容ではないが、ヘルスマーションの基本的な構造 (communication cycle) を理解するための参考資料であり、本科目の必須学修内容ではない。現代的な手法 (SNS, ナッジ等) については扱っていないが、コミュニケーションを構造的に捉えるための基盤として紹介する。無料PDF入手可能。
Nudge: The Final Edition	Richard H. Thaler, Cass R. Sunstein	Penguin Publishing Group	発展的学修内容。本資料は、本科目の学修内容ではないが、ナッジ理論の標準的な資料であるため紹介する。
医療現場の行動経済学－すれ違う医者と患者	大竹文雄 ほか	東洋経済新報社	発展的学修内容。本科目で「ズレ」と称している内容を別の視座から説明。本書は、医療現場における医師と患者の意思決定のズレを、行動経済学の視点から解説した一般向け書籍である。本科目の必須学修内容ではないが、行動科学・行動変容・医療コミュニケーションに関心を持つ学生の発展的学修のために紹介する。ナッジ理論の限界を検討するうえでも良書といえる。

6 準備学習（予習・復習）

予習は、インドセットとして授業開始前に、学習範囲を確認するクセをつけましょう。

復習は、キーワードの理解を中心に、1コマあたり最低でも各 0.5 時間勉強することを推奨します。

【欠席した場合の注意】

- ① 教務課だけではなく、科目責任者へ連絡を入れること。

7 授業計画

（1） 講義の方法

知識伝達のための講義，それに基づく演習，そして演習の意義を理解するための解説を基本としたアクティブラーニング形式で進める。

（2） 講義の内容

初回の授業は複数学年にまたがる行動科学の科目についての全体的なガイダンスを実施予定。

2回目以降は，科目担当者による授業。行動科学の諸理論を理解するための基盤となる対人（および集団）コミュニケーション行動の因子，医師—患者（あるいは家族）の面談時に起こりえる反応バイアスや，認知バイアス，患者の背景を理解するために必要な健康の社会決定因子や文化についての理解を深めていく。